



窪町だより

窪町小学校 令和4年度12月号

窪町小学校ホームページ URL: <http://www.bunkyo-tyo.ed.jp/kubomachi-ps/>

「特別な日」

校長 西幅 孝弘

先月の22日まで湯島天神菊まつりが行われていました。にぎやかな境内は七五三のシーズンも重なり、きらびやかな雰囲気江戸の情緒を感じさせてくれました。7月から菊の生長に携わってきた5年生は、栽培の難しさや苦勞を知っています。咲き誇る菊の花の奥に何人もの協力や汗を感じることができたことでしょうか。自分たちが丹精を込めて育ててきた分だけ、育てた人の苦勞まで分かる特別な想像力が働くのだと思います。

同じものを見ているとその奥深さや味わいは人によって違います。同様に一年前の自分自身のものの見方や考え方や今の受け止め方も違います。4年生の時に見ていた菊の花と、菊を育て終えた5年生の今の感じ方は違うと思います。このように物事が特別に見えるとき、いつもと違って感じられるときに私は「旅」を連想することがあります。

日常とは違う場所に行き、違う景色やひととの新しい出会いに感動する「旅」もあれば、同じ場所であっても、自分自身の変化によって見え方が変わり新しいひと・もの・こととの出会いに感動する「旅」もあるように思います。

その意味で私は、「学校は毎日が旅のようだ」と感じる人が多いです。子どもたちは挑戦と成長、達成と感動を繰り返し、ときに葛藤や不安を抱え足踏みをしたとしてもその中で、ものの見方や考え方を更新していきます。子どもの変化、私自身の変化も相まって昨日と違う子どもの表情や活動が毎日のように新鮮に感じられます。

フランスの作家マルセル・プルースト（1871～1922）の表現を借りれば

The real voyage of discovery consists not in seeking new landscapes, but in having new eyes.

（原文は仏語）のようになります。日常のなかでも旅はできるし、新しい自分の見方次第で、ひとはいつでも旅人になれるのではないのでしょうか。5年生や栽培委員会の子どもたちは菊づくりを通して小さな旅をしてきました。運動会も同様、苦勞してきた分だけ新しい見方や感じ方に出合ったことでしょうか。3日後の音楽会でもその過程を通して、子どもたちの視野は広がり、柔軟になり、深くなるのだと思います。目の前の事象のみを認識するだけではなくその奥にある何かを感じることができるようになり、表面に現れないだれかの苦勞や心の内も分かってあげられるようになると思っています。特別な日ではないどんな一日も学校では、一人ひとりへの指導・支援・勇気づけを大切にしていきたいと思っています。やり過ごしてしまいそうな何気ない一日にも「特別な日」を感じてもらうために。

いよいよ音楽会です

(文化的委員会担当 橋爪 純子)

令和4年12月2日、3日、いよいよ音楽会があります。
今回の音楽会のテーマは、

「一人一人の努力で 華やかなメロディー 満開！！」



どの学年にも「花」を意識した曲目を選びました。その音楽に取り組む中で、子どもたちの中から素敵なこのテーマが決まりました。このテーマの通り、子どもたちひとりひとりがしっかり音譜を読み、曲をイメージし、歌ったり、楽器を演奏したりして努力してきました。

この音楽会で、その花びらの一枚一枚が集まり華やかな音楽となって、満開の花を咲かせてくれるでしょう。是非、楽しみにしてください。

今回は、校舎を図工などで作った作品も掲示しています。校舎全体も華やかに彩られています。その風景も味わっていただくと幸いです。

事務室より

(事務担当 増田 友子)

事務室の仕事について紹介します。事務室では学習に必要な物品の準備のほか、給食費や学習費などの学納金の引き落としに関する業務も行っています。児童みなさんや保護者の皆様と直接関わる機会は少ないのですが、日々の教育活動がスムーズに行われるよう、職員室や主事室と連携を取りながら、子どもたちの学校生活を支援しています。

学校給食について

(給食主任 今泉 菜穂子)

学校給食では、食品を体の中の働きから分類し、栄養士が献立を考え、バランスよく食べることができるように指導を行っています。

子ども達の様子を見ていますと、家庭で食べられていない食品や献立、例えば、魚料理や和食の献立は、給食でも残りが多い傾向が見受けられます。苦手な食べ物でも「一口は食べる挑戦ができたら素晴らしいね。」と声を掛けています。

子どもにとって給食が楽しくて、美味しいものになり、子どもの成長に大切な役目が果たせるように努めていきます。

